

2030年コミットメントの進捗状況

「サステナビリティビジョン2030」では、3つの重点領域にそれぞれ3つもしくは4つの取組みテーマを設定しており、それらに対して2030年目標(定量・定性)を掲げております。これらのコミットメント進捗状況については、毎年度、当サステナビリティレポートにおいてご報告させていただきます。なお、ビジョン策定から一定期間が経過したことを踏まえ、2025年1月に重点領域「『自然環境』を持続可能にする」に関する目標計画の一部改訂を行いました。

重点領域：「健やかさ」を広げる			
日々の暮らしにおける身体と心の健やかさが、自然と広がっていくきっかけを作り続けます。			
取組みテーマ		2030年コミットメント	2024年度実績
健やかなくらしを良質に	健やかな日常に丁寧に寄り添いながら、心地よさ、彩り、楽しさといった、毎日を豊かにする+αも織り込んでいきます。	お客様のウェルビーイングを高めるために、健やかさを広げる商品・サービス・情報を提供します。	
より人生を長く健康に	人生100年時代に、老若男女が健康で充実した日々を長く送れるようにするためのサポートをします。		「健やかさ」を広げる商品等に関するレポートはP10～11
こころを穏やかに	毎日を、あるいは特別な日を、よりゆったりと、より穏やかな気持ちで過ごすようにする、様々なアイテムやサービスをお届けします。		
お客様のために、私たちも健康に	お客様の健康に貢献するためにも、私たち一人ひとりが心身ともに健康であることを目指します。	健康要因を様々な指標に基づいて多角的に捉え、従業員が心身ともに健やかで、それぞれの能力が十分に発揮できる状態を実現します。	定期健康診断受診率 … 99.7% (2030年目標:100%) ストレスチェック受検率 … 89.4% (2030年目標:100%) 運動習慣比率※ … 26.0% (2030年目標:70%、1週間に30分以上の運動を2回) 喫煙習慣比率※ … 17.1% (2030年目標:0%) ※ 2023年度実績を2024年度に報告

重点領域：「多様性」を応援する			
多様な価値観や立場などを踏まえ、女性をはじめ様々な方々のより良いくらしを後押しします。			
取組みテーマ		2030年コミットメント	2024年度実績
自分らしさをすべての人に	すべての人が、自分らしく誇りをもって暮らせる世の中に向けて、一人ひとりのライフスタイルを整えるお手伝いをしていきます。	お客様の自分らしくいきいきとしたくらしを実現するために、多様性を応援する商品・サービス・情報を提供します。	「多様性」を応援する商品等に関するレポートはP12～13
年齢を重ねる喜びを演出	それぞれの人が、自分らしく年齢を重ねていく足取りに、様々な喜びや楽しさを加える提案をしていきます。		
弱い立場にある方に寄り添う	人を取り巻く課題に向き合い、様々な活動に継続的に取組みます。	継続的に様々な社会貢献活動を推進します。	継続的なコースマーケティングや、町田市役所へ防災備蓄品の寄贈を実施(P13)
組織をより多様に	多様性を尊重し、誰もがその能力や個性をより持続的に発揮できる組織を目指します。	全従業員がダイバーシティ&インクルージョンを理解し、お互いを尊重し合い、一人ひとりが活躍できる職場を実現します。	eラーニングの受講率 … 85.0% (2030年目標:100%)
		業務上の意思決定を行うキーポジションの女性社員比率を、2030年までに50%以上にします。	33.3%

重点領域：「自然環境」を持続可能にする			
たのしく豊かなくらしのために、すべての事業活動において、自然環境保全につながる取組みを推進します。			
取組みテーマ		2030年コミットメント	2024年度実績
より自然環境にやさしくくらしへ	日々のくらしを、商品やサービスを通じて、自然環境にやさしく、持続可能にしてお手伝いをします。	お客様のくらしをより環境にやさしく心地よいものにするために、自然環境を持続可能にする商品・サービス・情報を提供します。	「自然環境」を応援する商品等に関するレポートはP14～16
			「サーキュラーエコノミー」の実現につながるような、既存事業の見直しや新たな事業を検討します。
責任ある紙の使用	通販事業者として責任ある紙の使用により、環境への影響の低減を追求します。	お客様のくらしをより環境にやさしく心地よいものにするために、自然環境を持続可能にする商品・サービス・情報を提供します。	お客からのご注文1回あたりの紙媒体における紙使用効率を、2030年には50%向上させます(2019年対比)。
		できる限り環境に配慮した用紙・印刷方法の採用を推進します。	カタログの一部で、環境負荷低減となるページブルオイルインキを採用
気候変動の緩和に向けて	世界共通の課題である、気候変動緩和のため“脱炭素”に向け、自社及びサプライチェーンにおける取組みを進めます。	温室効果ガス削減のため、CO2排出量(スコープ1・2)を2030年までに50%削減します(2013年対比)。また、2050年までにカーボンニュートラルを実現します。*	スコープ1・2 39.7%削減

※「気候変動の緩和に向けて」の2030年コミットメントは、2024年度分より上記に変更。なお、スコープ3は目標化せず、該当カテゴリの実績を開示。